

令和5年度

関係人口創出・拡大のための対流促進事業  
(中間支援組織の提案型モデル事業)

事業の実施結果  
(概要)

団体名	特定非営利活動法人 パラスポーツサポーター
事業名	徳之島パラスポーツアイランド化とパラアスリート&パラサポーター マッチングシステム構築による関係人口の創出事業

- ・ **徳之島でのパラアスリート受け入れ体制の現地調査、パラスポーツアイランド宣言の実施**：徳之島でのパラアスリートの受け入れ体制を構築するために、島内のスポーツ施設、宿泊施設のバリアフリーの状況などを調査。改善点などを提言するとともに対外的には、徳之島パラスポーツアイランド宣言を行い、企業向けパンフレットの制作やWebを通じた発信を行う
- ・ **パラサポーター育成のためのリアル&オンライン講座を実施とマッチングシステムの構築**：パラスポーツを支援するパラサポーターを募集、育成のためのリアル&オンライン講座を実施。そこで得られたパラアスリートおよびパラサポーター双方の課題やニーズを踏まえて、マッチングシステム構築に向けた要件定義を行う

## 主な活動内容

### 1. 現地調査およびパラスポーツアイランド宣言の実施

- ・ 徳之島をパラスポーツのメッカとしていくために、現地のスポーツ施設やパラアスリートの受け入れ体制について、実際にアスリートの立場から調査を行い、徳之島パラアスリートアイランド宣言を行うとともに企業向けパンフのやWebでの発信を行った。
- ・ 当法人が支援する形でバリアフリー対応の宿泊施設をオープンさせ、宿泊事業者、行政担当者など関係者に対して内覧会を開催した。

### 2. パラサポーター育成講座およびポッチャ体験会の実施

- ・ 徳之島および大阪ワンワールドフェスティバルでパラサポーター育成講座&ポッチャ体験会を開催した。
- ・ 徳之島ではオンラインポッチャのシステムも導入し東京の上智大学のパラスポーツ支援サークル、徳之島の徳洲会病院と連携し、オンラインを通じてポッチャを体験した。
- ・ 養成講座、体験会で得られた声や知見をもとに、パラアスリートとサポーターをマッチングするシステムの構築に向けた要件定義をおこなった。



パラスポーツアイランド宣言パンフ&Webの制作



当法人の支援によりバリアフリー対応の宿泊施設（コテージ）が徳之島伊仙町に7棟オープンした

## 主な成果

### 1. 参加者や地域の声

- ・ 参加者（都市部住民等）からは、徳之島が自然環境に恵まれ、各種のスポーツ施設が充実していることから、障がい者を包摂する「パラスポーツアイランド」としての可能性に大きな期待が寄せられた。
- ・ 地域住民からは、島の障がい者の人たちにもっとスポーツに親しむ機会を提供したいという強い要望が寄せられた。

### 2. 地域への影響や関係人口側の変容・文化的充足感

- ・ 障がい者と共生している島の特徴をパラスポーツアイランドとして強味にできることに賛同がえられた。
- ・ 島内には3つの町があるが、横断的な活動を行っている徳之島自立支援協議会が「宣言」に賛同を示しており、3町が連携して徳之島として宣言する方向で調整がすすめられている

### 3. 事業を通じて得られた気づきや知見

- ・ 障がい者と健常者が同じ目線で参加できるポッチャに対して島内でも関心が高く、ポッチャの島内での普及をパラスポーツの理解に繋げていく可能性があることがわかった。



徳之島のパラサポーター講座&ポッチャ体験会には、障がい者の方も参加。オンラインポッチャでは病院からも体験会にアクセスした。

大阪梅田スカイビルで開催されたワンワールドフェスティバルでも講座&体験会を実施

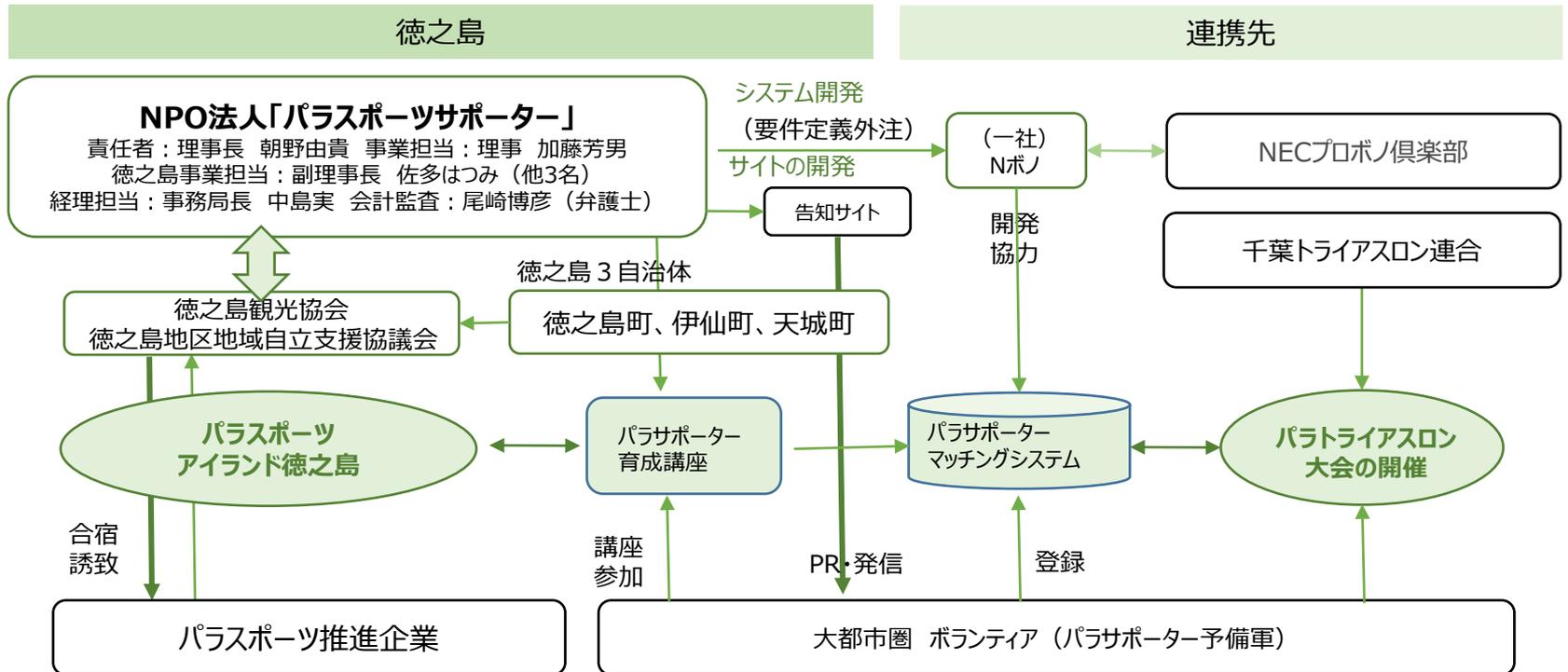


## 事業実施体制・関係機関

企画・運営

参画・関係人口

関係機関・役割



団体名	役割
徳之島町（徳之島）	徳之島パラスポーツアイランド宣言の推進
天城町（徳之島）	徳之島パラスポーツアイランド宣言の推進
伊仙町（徳之島）	徳之島パラスポーツアイランド宣言の推進
徳之島地区自立支援協議会	徳之島パラスポーツアイランド宣言の推進 徳之島におけるパラスポーツの普及を目指して、徳之島パラスポーツアイランド宣言を3町に働きかける
徳之島観光協会	徳之島パラスポーツアイランド宣言の推進、パラスポーツ合宿の誘致活動を推進
（一社）Nポノ、NECプロボノ倶楽部	NECプロボノ倶楽部は、NEC社員がプロボノ活動を通じて社会貢献活動を行っているボランティア組織。Nポノを窓口パラアスリート＆サポーターマッチングシステムの構築に向けた調査、要件定義を担当
オンラインポッチャ協議会	オンラインを通じて誰もがポッチャに参加できるシステムを作成し、普及活動をおこなっている
上智大学 Go beyond	東京パラリンピックを機にパラスポーツの普及を目的に活動している上智大学の学生サークルであり、本プロジェクトの講座の講師として参加
滋賀県ポッチャ協議会	滋賀県を拠点に健常者と障がい者が一緒に参加するポッチャのコミュニティを主宰。本プロジェクトの講座の講師として参加

## 次年度以降の事業展開

- ① パラアスリートアイランド宣言を徳之島の3町連携で行い、対外的な発信活動を展開  
⇒自立支援協議会を通じた3町に対する働きかけを展開中
- ② パラアスリートの徳之島での合宿コーディネートを徳之島観光協会との協業で事業化、収益化をはかる  
⇒徳之島の自然観察、農業体験などを織り込んだツアー企画を実施  
⇒企業チームの合宿誘致については、企業版ふるさと納税の活用を検討
- ③ 今期プロジェクトで得られた要件定義をベースに、寄付金またはクラウドファンディングを実施することでマッチングシステムの実装化を推進
- ④ マッチングシステムは、ポイントシステムの導入により、ボランティアの活動に対して一定のリワード（報酬）を提供する取り組みを開始する。パラアスリートが支援に対して一定のポイントを支払う新しい支援のありかたが生まれてくることが期待できる。
- ⑤ システムが稼働する状態になった時点で、大手のポイント発行企業（携帯キャリア、ポイント発行プラットフォーマー）等へのポイント原資の寄付を働きかけることを予定
- ⑥ ポッチャをパラトライアスロンと同様に本プロジェクトの戦略種目として捉え、徳之島における講座の継続的な開催等を通じてポッチャの普及活動を展開していくことで、パラスポーツとパラアスリート支援に対する島民の関心を喚起する。

## 自立・自走化にあたっての課題

- ・ パラスポーツに対する社会的な関心は高まったが、アスリートと観客の関係は、障がい者と健常者の関係に相似している。同じ目線でパラスポーツに取り組む機運を拠点地域である徳之島や大阪で醸成していくことが必要。そのためには、徳之島全体で取り組んでいるトライアスロンに加えてポッチャの普及がポイントとなる。
- ・ マッチングシステムの構築については、システム構築のための資金調達が最初のハードルとなるが、寄付活動やクラウドファンディングを通じて実現をめざす。
- ・ パラスポーツに取り組んでいる団体、企業の合宿誘致を実現するための渉外活動が必要、誘致が実現できたらその評価をテコにして輪を広げていく。

## 今後の事業展開スケジュール

- ・R6 3月～5月  
パラスポーツの団体、企業の誘致活動
- ・R6 3月～6月  
徳之島高校を対象としたパラサポーター養成講座＆ポッチャ体験
- ・R6 7月 徳之島トライアスロン大会  
へのパラアスリートチーム派遣
- ・R6 6月～8月  
クラウドファンディングの実施
- ・R6 9月～10月  
マッチングシステム構築に向けた  
検討、計画立案
- ・R6 11月～R7 4月  
システム構築実装作業

## 事業収支計画（R6）

- ・支出 システム構築費用（仮）  
10,000千円
- ・資金調達
  - ①補助金 4,000千円
  - ②寄付 2,000千円
  - ③クラウドファンディング 4,000千円